

第 25 回 西区地域福祉保健計画推進・評価委員会 議事要旨

開催日時	令和5年7月7日（金） 14時00分 ～ 16時30分
開催場所	西区役所3AB会議室
出席者	<p>計 19 名 大塚委員、梅山委員、米岡委員、武田委員、伊藤委員、並木委員、深野委員、竹下委員、吉村委員、阿部委員、鳴神委員、北井委員、渡辺（正）委員、石渡委員、奈良委員、佐藤委員、齋藤委員（永野委員代理）、和知委員、菊地区長</p> <p>【意見交換進行】 西尾 敦史氏（愛知東邦大学教授：第4期にこまちプラン策定アドバイザー）</p> <p>【事務局】牛頭福祉保健センター長、岩崎福祉保健課長、桑原事業企画担当係長、安部事務局長（西区社協）</p>
議事等	<p>○ 開会 区長あいさつ 本日は今年度が5か年計画の3年目にあたります、にこまちプラン第4期の取り組み状況を振り返り、後半に向けて様々な取組みを見直しつつ、推進していきたいと思えます。コロナ禍の3年間で、顔の見える関係をつくるのが難しい中、皆様の工夫によりまして、にこまちプランを推進してきたところです。新型コロナウイルス感染症も5類に移行し、活発な地域活動が戻ってきたと思う一方、物価の高騰などの社会不安で困っている方々もたくさんいらっしゃるのではないかと思います。</p> <p>にこまちプランの推進により、地域の皆様が幸せになれるように取り組んでいくことが必要と考えています。本日は取組の状況についてご意見をいただき、これからさらに西区を盛り立てていくため、取り組んでまいります。</p> <p>1 委員長の選任：事務局への一任で米岡委員が委員長</p> <p>2 議事</p> <p>(1) 第4期西区地域福祉保健計画（にこまちプラン）について</p> <p style="padding-left: 2em;">ア にこまちプラン（区全体計画・地区別計画）の概要について 事務局説明：桑原事業企画担当係長</p> <p style="padding-left: 2em;">イ 令和4年度区全体計画の振り返りについて（意見交換） 事務局説明：桑原事業企画担当係長</p> <p>○ 西尾教授 あいさつ にこまちプランについては、第4期計画策定から関わっています。地域の皆さま、関係機関の皆さまが非常に熱心に取り組まれていると感じています。本日は、にこまちプランの推進状況について、お互いに報告</p>



しあい共有する場としたいと思います。よろしくお願いいたします。

主な意見

目標1 安全が確保され、安心なまち

- 安全が確保され、安心なまちというのは震災時と日常のどちらにも通じる。西消防では初期消火が大切だと考えており、これには地域の協力が必要不可欠。西消防署では地域の防災訓練等に参加し、初期消火訓練を行っている。また、防災意識を高める研修についても動画等を活用しながら実施し、啓発を行っている。
- 障害特性を踏まえ、障害児者が安心して避難できるよう、「わたしの災害対策ファイル」を活用し災害への備えをすることはできているが、実際の避難方法については課題があると感じる。具体的には地域の防災拠点に一時避難し、福祉避難所へ移動するというのは難しいため、自宅近くの福祉避難所に事前に登録できるなど、生活実態に合わせた制度設計の見直しを検討してほしい。また、あんしんカードについては必要な方にまだ届いていないように感じるため、地域の中でわかりやすく活用できるような仕組みを一緒に考えていきたい。
- 普段から認知症の方のご家族には近所との関係づくりをお願いしているが、高齢者世帯も多く、いざという時の避難をサポートしてもらうことは難しい。また、避難所で認知症の方が過ごすのも難しいので、物資を蓄え在宅避難をするのが一番いいと思う。防災は、地域で生活する上で心配なことであるため、「安心・安全なまち」というテーマはにこまちプランにおいて重要なテーマであると感じる。
- 避難所に一時避難してから福祉避難所へ移動するのは大変ではないかという意見は多く、国でも直接避難や、個別避難計画の策定等について法改正も含めて検討されている。横浜市でも、モデル区を中心に検討を進めているので、今後も状況に応じてにこまちプランに盛り込んでいきたい。また、あんしんカードをより多くの方に活用してもらうため、昨年6月に検討会を開き、風水害時の避難場所欄の追加や、配布方法の拡大を行った。新しく作ったものを少しでも多く配付したいと思っているので気軽に区役所等に申請してほしい。
- 東日本大震災の際にはインフラへの影響が少なかったからか、ほとんどの住民が在宅避難をしていた。大きな避難場所に行くというのはハードルが高い。各町内会には一時避難場所があるので、そこをうまく活用したい。また、町内の方たちが日ごろから顔の見える関係を築いた上で、町内会の中にどんな備蓄があって、どの程度過ごせるのか、何が必

要なのかを話し合う必要がある。避難場所がどこにあるのか周知するのも大切だが、実際に自分の住む地域でどう避難するか、避難生活の具体的なイメージができるかどうかが大変重要。第5期計画に向けて、地区が防災についてどう考えていくかということを一に考えてほしい。

- 警察署では小学校と連携をして、不審者対応訓練の実施・特殊詐欺防止のキャンペーンの実施など、被害にあわないような周知を行っている。特に、特殊詐欺については西区内での発生件数が増えている。引き続き地域の方の協力をお願いしたい。
- 犯罪発生時の情報メール登録については地域振興課の事業で行っている。保護者へのアプローチについては、学校ごとの防犯メールへ登録すれば同様の情報が入ってくると思われるので、こちらのネットワークを活用してほしい。安心・安全のために引き続き啓発に努めていく。

目標2 活気にあふれ、健康なまち

- 保健活動推進員会では、ウォーキング、健康チェック、子育てサロンへの参加などそれぞれの地区に合った取り組みを進めている。特に、新型コロナウイルス感染症の流行を経て健康に不安を持つ方が多いことから、保健活動推進員会全体会では様々な健康チェックができるように勉強会を行った。これから町内会や各地区のイベント等に参加し、地域の皆さんの健康を見ていけるような担い手として活動していきたい。また、老人福祉センター（野毛山荘）や食生活等改善推進員（ヘルスメイト）、各地区の社会福祉協議会等の団体と連携・協力しながら進めていきたいと考えている。
- 毎月の定例会で検討した内容を、各委員が自治会の定例会等で共有することで、今までより活動の幅が広がってきていると感じる。西区は高齢化も進んでいるため、今後も、保健活動推進員等と連携しながら栄養と食事面の課題を解決するための取り組みを進めていきたい。
- 薬剤師会では7月5日に登録販売業者、保護司会と連携し、横浜駅東口広場で薬物乱用防止キャンペーンを実施した。また、区役所生活衛生課と連携し、井戸水の試薬検査も毎年行っている。
- 薬物乱用防止キャンペーンには、薬物乱用防止指導員協議会の西支部として参加した。広報チラシについても多くの方に受け取ってもらえたので、効果的な街頭キャンペーンだったと思う。
- シニアクラブでは交通安全や健康づくりなど目標1・目標2にあて

はまる内容の情報発信を日ごろから行っている。また、ウォーキングや
ころばんよ体操、身体を動かすゲームの実施等を定期的に行い、日常生
活の中で、健康に向けた活動ができていると思う。

目標3 一人ひとりの個性を認めあい、みんなが共存するまち

- 西区の生活支援センターでの先行事例として、マンスリーマン ショ
ンを活用した地域生活への移行支援という取り組みがあり、現在は他区に
も広がっている。主に精神障害のある方を対象に行っているが、身体障
害のある方向けのショートステイを利用した生活体験や、生活支援セン
ターで賃貸物件を借り、知的障害のある方の生活体験も行っている。3
層構造で障害のある方の生活体験ができるような仕組みを進めている。
障害のある方の生活体験だけでなく、地域の身近なところで障害のある
方が暮らすということを知ってもらいたい。
- 認知症キャラバンメイトとしては、新型コロナウイルス感染症によっ
て今までの活動が ほとんどできなくなってしまったため、地域ごとに
やり方を変えながら活動している。第六地区では認知症に関するチラシ
を作成し、地域への情報発信を行っている。新型コロナウイルス感染症
が落ち着いてからは認知症サポーター養成講座も行っているが、参加者
は高齢者が多く、もっと若者世代、子育て世代にも関心を持ってほしい。
認知症への理解を深め、キャラバンメイトになってもらえれば、より深
く地域と交流ができると思う。高齢者福祉関係分科会でも認知症の悩み
が多かったので、今年度のテーマとして取り組んでいきたい。
- 障害者をサポートする行政の制度はあるが、それを支える家族の支
援制度は少なく、地域に出ていくのにまだまだ障壁があると感じる。認
知症の方の話を聞いて似ていると感じた。お互いの理解を深めていくこ
とが重要であるし、地域の誰でも集まれる居場所があるといいと思
う。

目標4 地域全体がつながりを持つまち

- 子どもと地域のつながりに関して、第4地区では「みんなの食堂」と
いう活動をやっている。『夏休み中の子どもたちは、お昼ご飯をどうし
ているのか』と気になったことがきっかけだった。今まで自治会の活動
に興味を持っていなかった方たちも、参加してくれるようになり、食支
援から始まった活動が、地域のつながりに役立っているということを実
感している。また、見守り活動をしている団体同士のつながりとして、
3者交流会がある。ふれあい会と友愛会、見守り食事会の方が集まって
話す会で、地域の事情を知ることのできる大事な会になっている。

- 認知症の方の買い物に関して、商店街は非常に大きな役割があると思う。地域と密接に関係を持ち、各商店街が、地域の皆様と一緒にあって、いろいろな行事に参加している。これからも取り組みを充実していきたい。
- 保護司会の活動は、個人対応になりがちで、地域の方にあまり認知されていない部分があり、なり手が少なくなっていることも大きな課題となっている。これからはより一層、地域の活動に参加して、地域の中で保護司の活動を情報発信していこうと思う。
- 区内に地域ケアプラザが4館あるが、開設から20年が経過した現在でも、あまり認知されていないと感じる時がある。地域ケアプラザは、乳幼児から高齢者まで、幅広く地域の方々を支える施設であるということを知っていただくため、今後より一層、普及啓発活動に力を入れていく必要があると考えている。

目標5 子どもが健やかに成長できるまち

- 小学校と幼稚園との連携に取り組んでいる。幼稚園の先生が小学校の授業参観に行き、子どもたちと交流をすることで、「小1の壁」などの解消に活かす活動を行っている。
- 地域子育て支援拠点のスマイル・ポートを知るきっかけとして、区役所から紹介されて来館される方が多い。そうした方に、ご自身が住んでいる地域の地図を見ながら、地域のサロンや親子ふれあい会をご紹介している。私たち施設スタッフも地域のいろいろなところに出かけていき、地域のネットワークを広げて、お父さんお母さんの子育てを支援していく。
- 子どもたちと日常的に関わる人が、自分の家族と学校の先生だけになってきていると感じる。親世代が地域とつながっていないと、親を見て育つ子どもたちは地域とつながらなくなっていく。一方で、小さい頃に地域とのつながりがあった子の中には、学生になって今度は地域活動の手伝いをしてくれる子がいる。私達が子どもたちと地域を繋ぐ架け橋となるため、「子ども食堂」や「にこにこはうす（色々な人たちが気軽に集まれて話ができる地域の居場所）」の活動をしている。

ウ 横浜市西区社会福祉協議会分科会の取組について

横浜市西区社会福祉協議会 安部事務局長

○ 西尾教授 講評

各委員の皆さまより多くのご意見や日ごろの活動への思いをお伺いし、参加者同士共有できたことが本日の一番の成果だと思います。

また、西区の活動の特徴として、「みんなの」という言葉がキーワードになっていると感じました。「みんなの」という言葉には、「一緒に活動する」、「協力し合ってネットワークをつくる」という意味だけでなく、障害があっても、認知症があっても、「誰もとり残さずみんなが参加できるような地域づくりを実現していこう」という強い思いがこめられているのではないかと感じました。また、この思いがにこまちプランを推進する原動力になっているのではないかと思います。ぜひ残りの推進期間、また5期計画に向けても、いろんな知恵やアイデアや思いを出し合って策定していただきたいです。

(2) 西区アクションプランについて

西区高齢・障害支援課 西澤係長

(3) 地域包括支援センター運営協議会の運営及び報告について

事務局説明：桑原事業企画担当係長

○ 区長所感

本日は貴重なお時間をいただきありがとうございます。また、コロナ禍の3年間で、顔の見える関係づくりが難しいなか、それぞれの分野で取り組んでいただき、誠にありがとうございます。

本日のお話をお聞きし、地域福祉というのは、日々の生活そのものであると感じました。現在、西区の人口は約10万5000人です。この10万5000人の皆様が、日々の生活をいかに幸せに生きていくか、これをみんなで考えていくということに尽きると思います。

例えば、目標1（安全が確保され、安心なまち）は命に関わる、生きるか死ぬかの問題になると捉えています。本当に災害が起こったときには、みんなで助け合わなければなりません。地域コミュニティに愛着を持ち、どのように支え合って生きていくかをみんなで考え、実践していくかが重要です。第4期にこまちプランを進めていく中で、西区に愛着を持ってもらい、みんなが繋がり、家族のような関係を築いていきたいと思っております。

皆様のお力添えをいただき、10万5000人が幸せになれるよう取り組んでまいりますので、引き続きどうぞよろしくお願いいたします。本日はありがとうございました。

3 その他

令和5年度の「にこまちフォーラム」を令和6年2月17日（土）に西

公会堂で開催することを案内しました。

○閉会